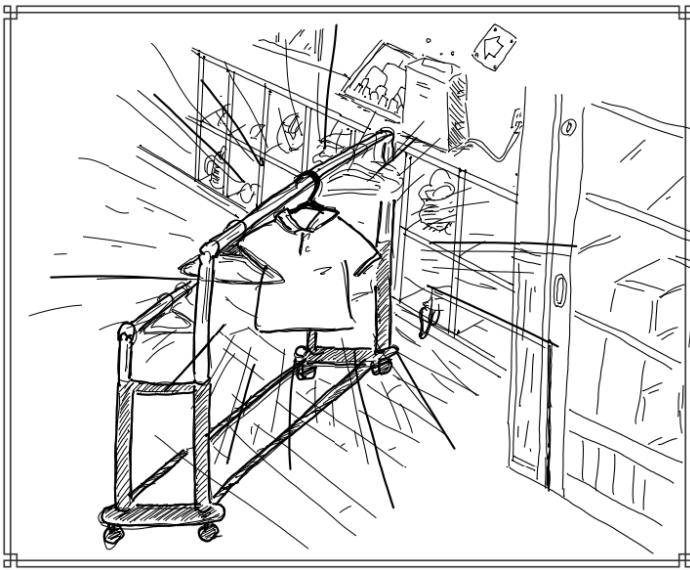


緊急ルポルタージュ

～忘れ物を防ぐ魔法の声掛け～



【あ！制服…】

今回は～忘れ物を防ぐ魔法の声掛け～の緊急ルポです。閉所間近の17時50分頃、ふと見ると制服がかかっている。

忘れ物は、子ども・保護者・児童クラブも困ってしまうもの。ゼロにすることは難しいかもしれませんが、みんなで協力して減らしたい！そんな思いで緊急ルポルタージュです。

忘れ物をするから、ダメな子ではありません。大人も忘れ物することありますよね。

ゴール：自分のものを、自分で管理できる人になる

「忘れ物をする」には、原因・要因があります。忘れ物をしやすい「もの」「展開」を調べ、忘れ物を防ぐ「魔法の声かけ」をみんなで共有し、忘れ物を防ぐ取り組みを保護者の皆さんと一緒にしていきたいです。

忘れやすいもの

- 連絡袋
- 制服・帽子
- 傘・カッパ
- 水筒

持ちものは、基本忘れてしまう可能性があるもの。忘れてしまうタイミングがあるので、検証します。

魔の15分、魔の雨、魔の金曜日

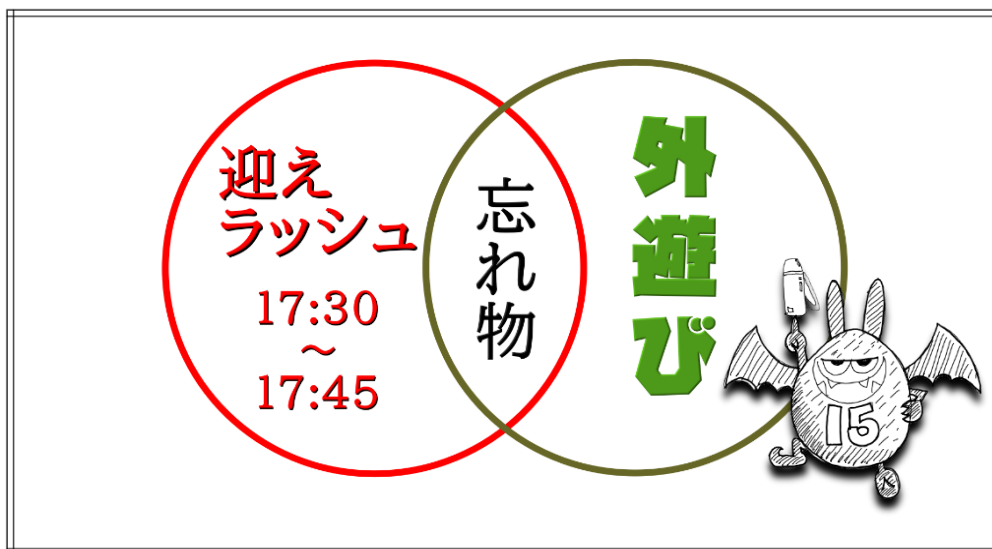
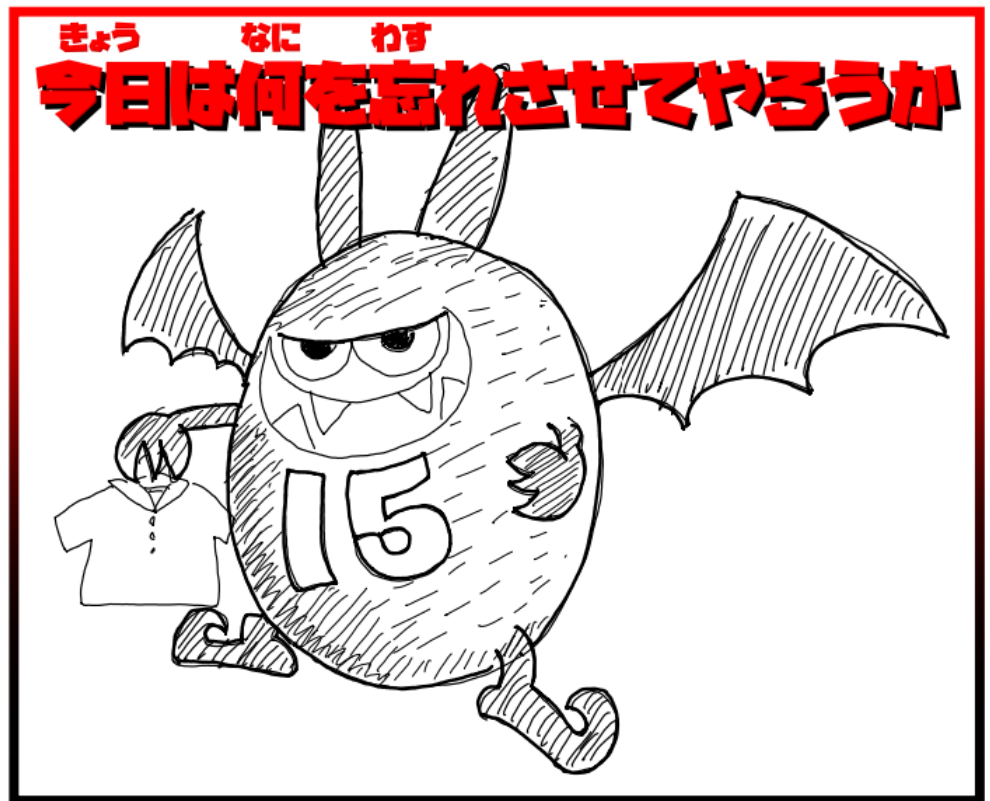
【1. 魔の15分】

下図は忘れ物が発生しやすい状況です。「外遊び・迎えラッシュ」が重なる時間。

17:30~17:45

これが「魔の15分」。

「外遊び」は基本、職員が二人出ます（高島・松永）。室内は一人で迎えるの対応をします（小松原）。



小学生の生活は、何が起るかわかりません。ケンかもあれば、突然盛り上がることも。調子の悪くなることもあれば、外で擦り傷なんてことも。保護者さんから話があれば、その対応もします。

そのため、「**魔の15分**」は、**一人ずつ忘れ物がないか確認できません。**

「魔の15分」で多い忘れ物は、制服・帽子・タオル・水筒。コロナ禍で、保護者さんが室内に入ることがなくなったので、子どもが自分で持ち物を確認します。だけど、遊んでいたたり、宿題をしていたりすると、ついつい目の前のものだけをもって、玄関まで行ってしまう。

【2. 魔の雨】

登校時に雨が降っていて、児童クラブに帰るときには雨が上がっているパターン。

傘が、つい忘れがちになってしまう。そして、カッパも要注意。

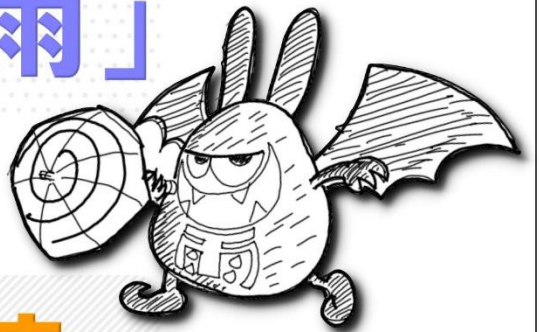
2年生以上でカッパを

使った時は特に危険！

登校は「雨」



帰りが「晴」



【3. 魔の金曜日】

金曜日は、学校から持って帰る荷物が増えます。**上靴・給食袋・体操服**。本を入れたバックを持って帰ることもあり、いつもと違うものを持っている時に、忘れがちになります。**忘れ物を防ぐ「魔法の声掛け」**を次ページに書いていますよ。

金曜日

- 上靴
- 給食袋
- 体操服



忘れ物を防ぐ魔法の声掛け

お迎えに来られた保護者の皆さんにもご協力いただきたくて、今回の緊急ルポルタージュをお届けしています。忘れ物は、ちょっとだけ確認をしてもらえると、ぐっと減ります。その確認の声掛けにもポイントがあります。

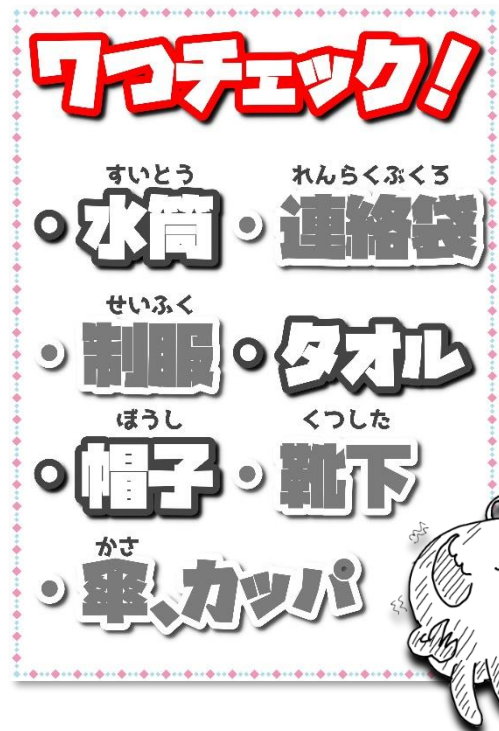
忘れちゃうパターン

保護者：「忘れ物ない？」 → 子ども：「ない。」

おすすめパターン

保護者：「制服持った？」 → 子ども：「あ！忘れた。」

主な忘れ物は7つ



忘れ物を防ぐには、「忘れ物」という漠然とした確認ではなく、具体的に確認すると減ります。左図は、玄関の間違い探しゾーンに貼ってある「7つチェック！」。

お子さんと一緒に、確認していただくと忘れ物で困ることが減ります。

ゴール：自分のものを、自分で管理できる人になる

「自分のものを、自分で管理できる」ための方法を、**玄関のちょっとした時間で、練習していることになり**ますよ。

連絡袋を忘れる展開

連絡袋を忘れやすい展開もあります。お迎えがおやつ・宿題の時間と重なっている時。連絡袋は宿題が終わった子から一人ずつ渡しています。いつものタイミングで渡せてない時に、申し訳ないのですが職員が渡しそびれることもあります。17:00までにお迎えに来られた時は、「連絡袋もらった？」と、声を掛けてもらえると助かります。

忘れ物があった場合

制服・帽子など、翌日学校で困るものは、電話で連絡させていただいています。その後、取りに来ていただいています。児童クラブ閉所後は、職員は勤務時間後になり、場合によっては保育士が代わりに対応することになります。

特に、という書き方は少しおかしいかもしれませんが、**制服・帽子を持っているかの確認をよろしくお願いします。**

【編集後記】

こうやって忘れ物特集を作ってみると、子どもたちに「忘れ物ない？」と聞いていた自分に気づきました。これからは、具体的に声を掛けて、少しでも忘れ物が減るようにしていきます。児童クラブでも、特に制服を忘れないようにする仕組みを話し合っています。

「忘れ物」は、親にとって永遠のテーマかもしれません。子どもにとって、興味関心のないものに意識を向けることは、とても難しいことです。それでも、いつまでも大人が代わりにやるわけにもいきません。日々、少しずつ「自分のものを、自分で管理できる人になる」ために、職員・保護者・子どもで協力して、取り組んでいきたいです。



この号で出てきた「魔の15分」公式キャラクターの名前を募集します。連絡帳で書いてくださってもいいですし、直接職員にお伝えしてくださってもかまいません。発表は次回のルポルタージュでしますね。どしどし、お願いします。

(高島 智)
